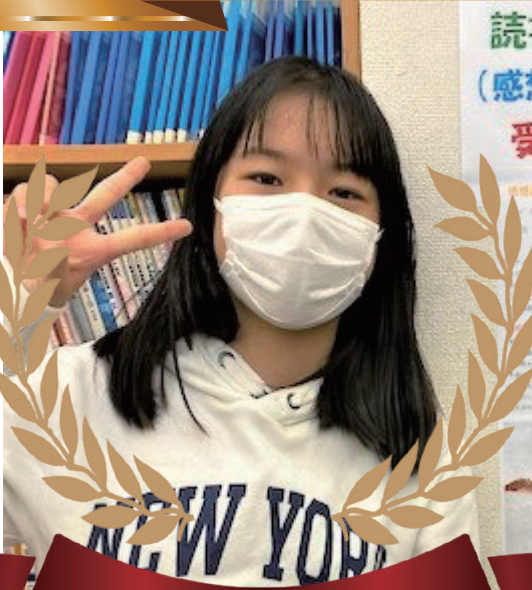


2021 第10回わくわく文庫読書感想文感想画部門 グランプリ入賞！！



開明とぴあ 津駅前校
高士 優海さん (小5)



はじめてのきもち
シートン動物記(1)より

●審査員長 池田あきこ先生の講評



作者は主として色のことについて書いています。
とても静寂で濃淡のある雪の灰色と狼の影も綺麗です。
山の色も複雑な色使いで、小学5年生でこれだけの絵が描けるのは将来が楽しみ。
作者は触れていませんが、横たわるピアンカも狼王のロボも目がいいです！
どちらも寂しげで、でも愛情にあふれている。
素晴らしい作品になったと思います。
これからもずっと絵を描き続けてほしいです。

☆高士 優海さんにインタビューしました！

Q コンクールに応募したきっかけは？

A 小さい頃から見ていた「ネコのダヤン」を描いていらっしゃる池田先生が審査員だと聞いて自分の絵を池田先生に見てもらおうと思ったからです。

Q この本を選んだ理由は？

A この作品はロボという狼が主人公なのですが、このロボの心情や感情がわかりやすかったからです。最後にピアンカ(ロボの妻)がなくなった時に、悲しい表情をするところを描きました。

Q 作品を作成するときに、工夫・苦労したところを教えてください。

A ピアンカの血の所を工夫しました。筆でブラッシングをして、よりリアルさを出しました。ロボやピアンカの毛と、下の雪の所と同化しないように気をつけました。

Q グランプリを受賞してどんな気持ちですか？

A あこがれの池田先生に表彰されて嬉しい気持ちでいっぱいです。でも指摘されたところはどんどん直していきたいです。

Q わくわく文庫の魅力を語ってください！

A わくわく文庫感想画をできる機会を設けられて、とてもいいと思います！速読もできるようになって、いいことづくしです！

Q さいごにひとこと！！

A 私が言うのもなんですが、少しでも自分の絵に自身がある人は、ぜひ応募してほしいです。本で読んだ事、感じたことを絵に表せるのは、とても素晴らしいことだと思いますし、賞などをもらおうと、自分に自身が持てると思うからです。

これからも素敵で上手な絵を書いていきたいです。

2021 第10回わくわく文庫読書感想文コンクール 入賞!



開明とぴあ 中川駅前校
谷 翔真くん (小6)

芥川龍之介『杜子春・蜘蛛の糸』より
「蜘蛛の糸」

●審査員メンバーからのコメント

優しい文体ながらも重い話を、明るく冷静に分析していました。「かんだた」だけではなく、おしゃかさまの行動も、よく理解し自分の言葉で素直に表現できています。おしゃかさまのたらす「くもの糸」、こわいので気をつけましょうね。

谷さんはこれからも学校やその他にも様々な場面で「くもの糸」のような場面を経験するでしょう。いろんな選択肢が考えられると思いますが、谷さんは「思いやり」に満ちあふれた行動をされるのではないかと思います。

☆谷翔真くんにインタビューしました!

Q コンクールに応募したきっかけは?

A いつもわくわく文庫で感想文を書いて、すぐに文章がかけるようになったし、先生にも勧められたから。

Q この本を選んだ理由は?

A 題名からすごく気になったし有名な作家の人が書いた本だったから。

Q 感想文を作成するときに苦労したこと・工夫したことはありますか?

A 思ったことをしっかり言葉に表すこと。

Q 入賞してどんな気持ちですか?

A いつもわくわく文庫で読み取る書くことをしてきたおかげだと思うので、とても嬉しいです。

Q わくわく文庫の魅力を語ってください!

A 早く読む力、読み取って感想を書く力がつくと思うのでそこがいいと思います。

Q 最後にひとこと!!

A これよりも上の賞があったりしたので、これからのわくわく文庫もがんばりたいです。